

株式会社モリ・フロッキー

Tシャツプリント業者が挑む！ 革新的ハイブリッド印刷システム

モリ・フロッキーが約20年前に始めたTシャツのプリント加工事業が近年、売り上げを伸ばしている。現在は全売り上げの7～8割を占め、主力事業に成長した。従来の体操服へのプリントで培った安定した技術力やプリント加工から梱包、発送までをワンストップで提供する事業内容が顧客から評価を得ているという。

会社概況

20年前にTシャツの仕事を開始

モリ・フロッキーは1973年に会社を設立し、服や帽子にプリント加工の1種であるフロッキー加工を手がけた。フロッキー加工はフェルト状の層を服などに接着させる技術で、学生服メーカーや大手企業から体操服や帽子、工場内で着用する作業服などへのフロッキー加工を受注したという。約20年前から新規事業として、Tシャツのプリント事業を始めた。国内でTシャツを製造する会社が設立され、プリント加工を受託できないかと「相談を受けたことが始まり」（森敬太郎専務）という。学生服メーカーの仕事は秋から冬に集中しており、春から秋にかけてTシャツの仕事を手がけた。当初は補完的な仕事だったが、今では主力の事業に成長した。



主力生産拠点である倉敷市の本社工場

事業内容

ハイブリッド印刷の設備を導入

Tシャツのプリントは大きく二つの手法がある。一つは従来の「シルクスクリーン印刷」で1色ごとに版を作成し、1色ごとにプリントする。顧客の要望に対して1色から対応できるので低廉で大量生産に向いている。だが、画像をそのままプリントするなど複雑なデザインには向いていない。一方、近年増えているのが「インクジェット印刷」。画像などのデータをそのままプリントでき、Tシャツ1枚から生産可能。だが、インク代が高いのが課題という。そこでモリ・フロッキーがものづくり補助金を活用し、導入したのは「ハイブリッド印刷システム」の設備。シルクスクリーン印刷とインクジェット印刷の「良いところ取りをしたシステム」（森専務）という。



約20年前にTシャツのプリント事業を開始

事業成果

生産時間を65%短縮

ハイブリッド印刷システムは特殊仕様のシルスクリーン回転機、ハイブリッド印刷機、低炭素型乾燥機で構成し、2023年に導入した。Tシャツのプリントでは、下地となる白色をシルスクリーン印刷で行い、その後、下地の上にハイブリッド印刷機で複雑なデザインをプリントする。2段階のプリントにすることで、生産時間の短縮とコストの削減につながる。生産時間の短縮は計画通り、従来比65%短縮を実現した。スマートフォンで撮影した画像をTシャツにプリントするなど「オリジナルTシャツの需要は増える」（森専務）と見ている。ハイブリッド印刷などのデジタル部門を強化し、さらなる成長を目指す方針だ。



ものづくり補助金でプリント後の乾燥機も導入

会社概要 company profile

創業 1973年1月
資本金 1000万円
代表取締役 森 達海
社員数 120人
売上高 9億6000万円(2024年7月期)

所在地 岡山県倉敷市児島下の町9の13の24
TEL 086-474-3430
FAX 086-473-2932
URL <https://www.mori-flocky.jp/>

ワンポイント

3月1日は
オリジナルTシャツの日

モリ・フロッキーによるとカスタムプリントTシャツの国内市場は約500億円で年々成長しているという。2013年に日本オリジナルTシャツ協会が設立。3月1日を「オリジナルTシャツの日」と定めて啓発イベントなどを開いている。またオリジナルTシャツの生産する人および販売する人を対象とした検定試験を実施し、合格した人を「オリジナルTシャツソムリエ」として認定している。



専務取締役
もり けい たらう
森 敬太郎さん